

ユネスコスクールの活動について

北海道ユネスコ協会連絡協議会

会長 大津 和子

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念の実現を目指す教育活動に取り組む学校です。世界の182か国・地域に、10,000校以上のユネスコスクールがあり、日本国内では、「国連持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」が始まった平成17年から急増して、平成29年1月時点で（登録申請中の学校を含め）1,000校を超えました。

北海道では44校がユネスコスクールに登録され、9校が申請中です。道内各地の地域性を生かして多様な活動が展開されていますが、ここではいくつかの学校の活動に注目してみます。

石狩市立双葉小学校は、各学年の「総合的な学習の時間」にESDの視点を盛り込み、3年生は「食・健康」、4年生は「地域」、5年生は「環境」、6年生は「国際理解」をテーマとして学んでいます。また、全校一斉の取り組みとして年2回ユネスコスクール集会を開き、1年間の活動のまとめとして「社会や未来のためにできること」を発表します。

千歳市立末広小学校は、「自然や命を大切に作る心・生き方の学びとして、持続可能な社会の創造や異なる価値観をもつ人間同士の相互尊重・共生」を目標に掲げ、アイヌ文化学習を1年生から6年生まで系統的に展開しています。地域の人々の協力を得ながら、アイヌ文化への理解を深めるとともに、共に生きることの大切さを学んでいます。

北海道斜里高等学校は、「世界遺産知床」をフィールドとしたESD活動に取り組んでいます。「知床自然体験学習」「知床自然概論」「観光一般」「観光英語」などの選択科目を設定し、地域や大学と連携して、自然保護と地域の持続的発展に貢献できる創造的で実践的な能力をもつ人材の育成を目指しています。

海星学院高等学校は、「世界が続いていくために、私たちができること」をテーマとし、主に開発途上国と国内被災地の支援を通じて、持続可能な社会の担い手に求められる資質の涵養を目指しています。「世界の食糧問題」の講演会や、JICA主催「世界の笑顔のために」プログラムへの参加等、豊かな「出会い」と「学び」の機会をつくっています。

ユネスコスクールは、文部科学省によりESDの推進拠点として位置付けられています。ESDに対する理解をいっそう深め、他校の実践からも学びながら、持続可能な社会の担い手を育成することが期待されています。